

2元2次形式の類数とヒルベルトモジュラー群に対するルエル型ゼータ関数

権 寧魯 (九州大学大学院数理学研究院)
YASURO GON (KYUSHU UNIV.)

1. 講演の概要

整数の集合 \mathcal{D} を以下で定義する.

$$\mathcal{D} := \{d \in \mathbb{Z} \mid d \equiv 0, 1 \pmod{4}, d \text{ not a square}, d > 0\}.$$

整数 $d \in \mathcal{D}$ に対して, 判別式 d の原始的 2 元 2 次形式の同値類の個数を $h(d)$, 整数の組 (x_d, y_d) をペル方程式 $x^2 - dy^2 = 4$ の基本解とし, $\varepsilon_d := (x_d + \sqrt{d}y_d)/2$ とおく. 2 次形式の類数 $h(d)$ の漸近的振る舞いに関しては, Gauss, Siegel, 新谷による漸近公式が有名であるが, Sarnak によりモジュラー群 $PSL(2, \mathbb{Z})$ に対するセルバーグゼータ関数の解析的性質とその数論的表示を用いて, 以下の漸近公式が知られている. $\text{Li}(x) = \int_2^x 1/\log t dt$ とおく.

$$(1.1) \quad \sum_{\substack{d \in \mathcal{D} \\ \varepsilon_d \leq x}} h(d) \log \varepsilon_d \sim \frac{x^2}{2}, \quad \sum_{\substack{d \in \mathcal{D} \\ \varepsilon_d \leq x}} h(d) \sim \text{Li}(x^2) \quad (x \rightarrow \infty).$$

この講演では, 上記漸近公式の実 2 次体の整数環係数の 2 元 2 次形式の類数への一般化がヒルベルトモジュラー群に対するルエル型ゼータ関数の解析的性質と数論的表示から導かれることを説明する. K を類数 1 の実 2 次体, \mathcal{O}_K を K の整数環とする. K の元 a に対して, a' で \mathbb{Q} 上の共役元を表すとす. \mathcal{O}_K の部分集合 \mathcal{D}_{+-} を以下で定義する.

$$\mathcal{D}_{+-} := \{d \in \mathcal{O}_K \mid \exists b \in \mathcal{O}_K \text{ s.t. } d \equiv b^2 \pmod{4}, d \text{ not a square in } \mathcal{O}_K, d > 0, d' < 0\}.$$

\mathcal{O}_K の元 $d \in \mathcal{D}_{+-}$ に対して, 判別式 d の \mathcal{O}_K 係数, 原始的 2 元 2 次形式の同値類の個数を $h(d)$, \mathcal{O}_K の元の組 (x_d, y_d) をペル方程式 $x^2 - dy^2 = 4$ の基本解とし, $\varepsilon_d := (x_d + \sqrt{d}y_d)/2$ とおく. (今, K の類数は 1 と仮定していることに注意.)

Theorem 1.1 (ルエル型ゼータ関数). (1) ゼータ関数 $R_K(s) := \prod_{d \in \mathcal{D}_{+-}} (1 - \varepsilon_d^{-2s})^{-h(d)}$ はある右半平面で絶対収束し, \mathbb{C} 全体に有理型に解析接続される. (2) $s = 1$ で 2 位の極をもち, $\text{Re}(s) \geq 1$ において非零となる. (3) $s = 0$ で零点をもち, その位数は $2(E(X_K) + 1)$ となる. ここで, $E(X_K)$ は K から決まるヒルベルトモジュラー曲面 X_K のオイラー標数である.

Theorem 1.2 (漸近公式).

$$(1.2) \quad \sum_{\substack{d \in \mathcal{D}_{+-} \\ \varepsilon_d \leq x}} h(d) \log \varepsilon_d \sim x^2, \quad \sum_{\substack{d \in \mathcal{D}_{+-} \\ \varepsilon_d \leq x}} h(d) \sim 2\text{Li}(x^2) \quad (x \rightarrow \infty).$$

Date: 2012 年 1 月 25 日.
東京工業大学・大岡山談話会.